

『アスレティックトレーニング学』

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

〔1刷・2刷〕

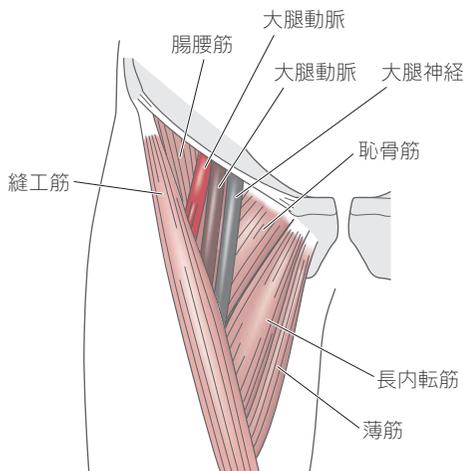
●p.204 右段下から3行目

(誤) 第1～5中足骨の遠位関節面と楔状骨・立方骨の間で形成される関節をリスフラン関節とよぶ。

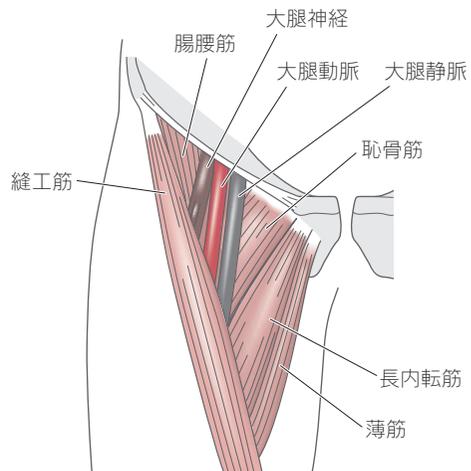
(正) 第1～5中足骨の近位関節面と楔状骨・立方骨の間で形成される関節をリスフラン関節とよぶ。

●p.293 図12-14

(誤)



(正)



〔1刷〕

●p.33 左段上から2行目

(誤) 喘息のコントロールには発作の長期管理を目的とする薬 (e.g., 短時間作用型吸入 β 2刺激薬, 吸入アトロピン, イプラトロピウム臭化物, 硫酸マグネシウム) と急性の発作治療を目的に用いる薬 (ステロイド, 長時間作用型吸入 β 2刺激薬) の2種類が存在する。

- (正) 喘息のコントロールには発作の長期管理を目的とする薬 (e.g., ステロイド, 長時間作用型吸入 β 2刺激薬) と急性の発作治療を目的に用いる薬 (e.g., 短時間作用型吸入 β 2刺激薬, 吸入アトロピン, イプラトロピウム臭化物, 硫酸マグネシウム) の2種類が存在する。

●p.82 第4章 第3節 第3項のタイトル

- (誤) (3) 全身の生態力学的特徴：身体全体のバイオメカニカルな描写
 (正) (3) 全身の生体力学的特徴：身体全体のバイオメカニカルな描写

●p.82 第4章 第3節 第4項のタイトル

- (誤) (4) 局所の生態力学的特徴：関節/組織のバイオメカニカルな描写
 (正) (4) 局所の生体力学的特徴：関節/組織のバイオメカニカルな描写

●p.84 表4-3

(誤)

接地時の下肢および体幹の位置	1. 接地時に膝関節が30°以上屈曲している	Yes : 0, No : 1
	2. 接地時に股関節が屈曲している(体幹と一直線になっていない)	Yes : 0, No : 1
	3. 接地時に体幹が直立もしくは後傾位になっていない	Yes : 0, No : 1
	4. 接地時に足関節はつま先から接地している(踵や足底全体で接地していない)	Yes : 0, No : 1
	5. 接地時に膝関節が外反している	Yes : 0, No : 1
	6. 接地時に体幹が側方傾斜している	Yes : 0, No : 1
足部の位置	7. 足幅が肩幅より広すぎる	Yes : 0, No : 1
	8. 足幅が肩幅より狭すぎる	Yes : 0, No : 1
	9. 膝関節最大屈曲までの間に、足部が30°以上内側を向く(toe-in)	Yes : 0, No : 1
	10. 膝関節最大屈曲までの間に、足部が30°以上外側を向く(toe-out)	Yes : 0, No : 1
	11. 足部接地のタイミングは、左右対称である	Yes : 0, No : 1
接地から膝関節最大屈曲までの下肢および体幹の動き	12. 膝関節の屈曲角度変位が45°以上ある	Yes : 0, No : 1
	13. 股関節の屈曲角度は、接地から膝関節最大屈曲までに増加した	Yes : 0, No : 1
	14. 体幹の前傾角度は、接地から膝関節最大屈曲までに増加した	Yes : 0, No : 1
	15. 膝関節最大外反時に、膝蓋骨はつま先よりも内側に位置している	Yes : 0, No : 1
全体的な動き	16. 関節運動として、矢状面では体幹-股関節-膝関節が十分に動いて柔らかいな着地ができている	Soft : 0, Average : 1, Stiff : 1
	17. 全体的な印象として、柔らかい着地をして、かつ、前額面では膝関節の動きがない	Excellent : 0, Average : 1, Poor : 2

(正)

接地時の下肢および体幹の位置	1. 接地時に膝関節が30°以上屈曲している	Yes : 0, No : 1
	2. 接地時に股関節が屈曲している	Yes : 0, No : 1
	3. 接地時に体幹が直立もしくは後傾位になっていない	Yes : 0, No : 1
	4. 接地時に足部はつま先から接地している	Yes : 0, No : 1
	5. 接地時に膝関節が外反している	Yes : 1, No : 0
	6. 接地時に体幹が側方傾斜している	Yes : 1, No : 0
足部の位置	7. 足幅が肩幅より広すぎる	Yes : 1, No : 0
	8. 足幅が肩幅より狭すぎる	Yes : 1, No : 0
	9. 膝関節最大屈曲までの間に、足部が30°以上内側を向く(toe-in)	Yes : 1, No : 0
	10. 膝関節最大屈曲までの間に、足部が30°以上外側を向く(toe-out)	Yes : 1, No : 0
	11. 足部接地のタイミングは、左右対称である	Yes : 0, No : 1
接地から膝関節最大屈曲までの下肢および体幹の動き	12. 膝関節の屈曲角度変位が45°以上ある	Yes : 0, No : 1
	13. 股関節の屈曲角度は、接地から膝関節最大屈曲までに増加した	Yes : 0, No : 1
	14. 体幹の前傾角度は、接地から膝関節最大屈曲までに増加した	Yes : 0, No : 1
	15. 膝関節最大外反時に、膝蓋骨はつま先よりも内側に位置している	Yes : 1, No : 0
全体的な動き	16. 関節運動として、矢状面では体幹-股関節-膝関節が十分に動いて柔らかいな着地ができています	Soft : 0, Average : 1, Stiff : 2
	17. 全体的な印象として、柔らかい着地をして、かつ、前額面では膝関節の動きがない	Excellent : 0, Average : 1, Poor : 2

●p.425 図18-13 図の典拠を追加

(誤) 垂直跳びにおける運動連鎖

(正) 垂直跳びにおける運動連鎖

(真鍋 (2017) の仮説をもとに作図)